

	測 定 する 能 力
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的読解力B
論理的思考力	論理的思考力
論理的表現力	論理的表現力

**問題Ⅰ** 論理的言語力

**第二問** ■解答 (各6点 完全解答)

1) 行数	18 行目	正	誤
2) 行数	8 行目	正	誤
3) 行数	11 行目	正	誤
4) 行数	16 行目	正	誤
5) 行数	4 行目	正	誤

- 解説
- (1) 十七行目の「このこと」は直前のシジュウカラに関する実験を指している。「このことは」↓「果たしている」ではなく、「示している」や「推測させる」と直さなければいけません。
- (2) 「四つの」↓「同じように」では、言葉がつながりません。そこで、「同じように」↓「配置し」、「四つのスピーカーを」↓「配置し」と、正しくつながるように直します。
- (3) さえずりを流している手段がスピーカーなので、助詞を主語の「が」ではなく、「で」にします。
- (4) つれあいの雌が決まると、雄のさえずりの頻度が少なくなったことを受けて、次に雌を取り除いてみたのだから、例示の「たとえば」ではなく、順接(因果)の接続語。
- (5) 「常に」は直後の「さえずる」にかかっているもので、その前に読点を置いて切ることはできません。

**第二問**

■解答 (各5点)

- 第二段落 まず、なわばり  
第三段落 次に、雌に対することと、雌に自分の魅力を誇示するための二つの機能のためとし、以下それを論証した文章。

■解説

冒頭、雄の鳥がさえずるのは、なわばりを宣言すること、雌に自分の魅力を誇示するための二つの機能のためとし、以下それを論証した文章。第二段落は、「まず、なわばり」からで、一つ目の機能である「なわばりを宣言すること」を証明し

ています。

第三段落は、「次に、雌に対する」からで、二つ目の機能である「自分の魅力を誇示する」を証明しています。

\*\*\*

**問題Ⅱ** 論理的読解力A

第一問

■解答 (各1点)

- (1) 蜘蛛 (2) 羽虫 (3) 蠅

■解説

- (1) 「彼ら」とは直前の「昆虫」ですが、「昆虫以外」という条件から、「空に織る」活動をしているのは、「蜘蛛」と分かります。
- (2) 直前の群がっている「羽虫」に日が当たったので、
- (3) 後に「蠅捕り蜘蛛」「蠅と日光浴をしている男」などから、「蠅」。

第二問

■解答 (8点)

病人の私が病室から出られないのと同じように、蠅も外気へ飛び立とうとしないこと。

■解説

「まねている」とあるので、蠅と病人である「私」との共通点をつかまえます。直前の「外気のなかへも決して飛び立とうとはせず」を押さえます。

第三問

■解答 (6点)

牛乳瓶に落ちた蠅

■解説

何を助けてやるのか、直前から具体的な箇所を探します。すると、蠅が二匹、牛乳瓶の中に落ちたことが分かります。

第四問

■解答 (8点)

病気による「疲労」のため、都会に帰ることができないから。

■解説

直後の「都会へ帰る日取りはとうの昔に過ぎ去ったまま」が根拠。

第五問

■解答 (各1点)

- (1) ウ (2) オ (3) ア (4) イ (5) エ

■解説

- (1) 直後の「私を瞞(だま)そうとする」から、「幻影」。
- (2) 太陽の光と真逆のもので、直前の「私を殺すであろう」から、「酷寒」。
- (3) 窓の風景が消えていくのを惜しむ気持ちだから、「愛惜」。
- (4) 空所直後に具体的な説明があり、それを受けて、「私はそれをも欺瞞(だま)と言うのではない」とあることから、答は「欺瞞」。
- (5) 直後の「一つの物象の色をその周囲の色との正しい階調から破ってしまう」から、「偏波」。

第六問

■解答 (4点)

初め 私が最後に 終わり のである。

■解説

「私が最後に都会にいた頃」から、回想シーンが始まります。そして、「眺めていた。そして落日を見ようとする切なさ」に駆られながら、見透しのつかない街を慌てふためいてうろろしたたのである。「とあり、その直後に「今の私は」とあるので、ここから、「現在」に戻っていると分かります。

第七問

■解答 (各3点)

イ オ

■解説

イ「水蒸気のような白いもの」は昆虫なので、「霜」が解けて蒸発するから」が×。  
オ 落日を求めて町を彷徨ったのは、「私が最後に都会にいた頃」だったので、×。

\*\*\*

**問題Ⅲ** 論理的思考力

第一問

■解答 (各4点)

- (1) あるいは・書物  
(2) 音読・する

■解説

- (1) 真の教養とは単なる知識ではなく考え続ける力だ。  
(2) 名文を書き写すことは文章力をつけるには有効だ。

第二問

■解答 (各4点)

- (1) この映画のラストシーンは圧巻だ。  
(2) 彼女の振る舞いのすべてが洗練されていた。

■解説

- (1) 「ラストシーン」は「↓」圧巻だ」が、主語と述語。後は、「この」↓「映画の」↓「ラストシーン」は「言葉のつながりを考えます。
- (2) 「すべてが」↓「洗練されていた」が主語と述語。「彼女の」↓「振る舞いの」↓「すべてが」と、言葉のつながりを考えます。

第三問

■解答 (各4点)

- (1) 臨機応変な返答が必要だ。
- (2) 君は問題を拡大解釈しすぎだ。

■解説

文節や単語ではなく、一文字ずつに分かれているから、語彙力が必要とされます。

- (1) 「臨機応変」「返答」「必要」といった語句が浮かんだかどうか。
- (2) 「問題」「拡大解釈」といった語彙が浮かんだかどうか。

第四問

■解答 (8点)

自分を客観的に捉える方法

■解説

世阿弥の「離見の見」「目前心後」という言葉が、何のために必要かを読み取ったかどうか。

「世阿弥は自分の姿を離れたところから客観的に捉えなさい」とあるのを、字数以内にまとめます。

第五問

■解答 (8点)

ウ

■解説

趣旨を読み取ったどうか。空所直前の「彼等は妙に小さかった。のみならず如何にも見すばらしかった」とあるから、文学と比べて、人間(人生)がいかに卑小なのかを表現している言葉を選びます。

\*\*\*

問題1

論理的読解力B

第一問

■解答 (10点)

C ↓ A ↓ D ↓ B

■解説

A ↓ D の各段落冒頭を見当すると、A「かくの如く」、B「思えばそれは」と指示語があります。そこで、CかDから始めると分かると同時に、これらの指示内容を各段落末尾に求めます。

Aの「かくの如く」は、C「点となってここに私が私として生まれる」を指しているので、C ↓ Aの順番。

B「思えばそれは」は、Dの末尾、「私は自分を一人の旅客にして見る」を指しているので、D ↓ Bの順番。

最後は、C ↓ A が先か、D ↓ B が先かを考えるのですが、Eの冒頭に、「思えばそれは険しい道で

もある」とあるので、Bの「それは寂しい道である」を受けていると分かる。そこで、B ↓ Eの順番。

第二問

■解答 (6点)

私の生命(自分の生命)

■解説

私がつた一つ確実に所有しているのは、直前の「(の生命)」、つまり、「私の生命」。

第三問

■解答 (各2点)

- (1) オ (2) ウ (3) キ (4) ケ (5) コ

■解説

- (1) 「私自身」とイコールなのは、「主体」。
- (2) 直後に「きびしい鞭打ちを与えざるを得ないものは畢竟自身に対してだ」とあることから、「厳粛」。
- (3) 直後で、死ぬときを比喩的に「廃墟」と述べているから、生の状態は「城郭」。
- (4) 直前の「宝玉」から、「価値」。
- (5) 頷くという意味の「首肯」。

第四問

■解答 (4点)

る ↓ まい

■解説 — 難問 —

末尾に「私は自分が極めて低い生活途上に立っているものであることをよく知りぬいている。ただ、今の私はそこに一番堅固な立場を持っているが故に、そこに立つことを恥じるとするものだ。」とあります。だが、筆者は「一番堅固な立場を持っているが故に」とあるので、低い生活途上に立っていても、それに恥じることはないはず。そこで、「恥じる」を「恥じまい」と修正します。

第五問

■解答 (各2点)

- (a) エ (b) オ (c) ア (d) イ (e) ウ

■解説

- (a) 添加の「そして」。
- (b) 「たとえ〜罵らば」と呼応関係。
- (c) 直前の「私は何ものでもない」を受けて「それで」。
- (d) 逆接の「しかし」。
- (e) 「もし〜ならば」と呼応関係。

問題2

論理的表現力 (40点)

\*\*\*

■解答例

私たちの心の奥底にある言葉にならない何かは、絵や音楽や舞踏を通して表現することができる。神や仏は本来姿形がなく、それゆえ私たちには見ることができないが、十字架、神棚、仏像と、私たちは形を通して、神や仏を認識しようとする。

考えてみれば、世界は形のない「こと」と、形のある「もの」とで成立っているのではない。人の心は「こと」であるし、私たちは相手の心を表情という「もの」を通して読み取ろうとしている。

人はいつでも形のない「こと」を重視し、それを何とか読み取ろうと希求するのだが、その「こと」はいつも「もの」の姿を取ってしか、私たちの目の前には姿を現さないのである。

■解説

五つの条件をまず頭に置くこと。「使用する語句」の論理的関係を考えます。この問題は何も知識や発想力を問うものではありません。与えられた語句を論理的に整理することで、論理的な文章ができあがります。

A「①もの ④形がある」、B「②こと ⑤形がない」とすると、AとBが対立関係です。具体例から始めるという条件から、それぞれの「使用する語句」が、Aの側か、Bの側かを考えます。

A「もの」形がある「⑥十字架⑦表情⑩仏像 B「こと」形がない「⑨心

すると、人は形のないもの、例えば「心」などを、形を取って表そうとしていることが分かります。